岡山県農林水産総合センター水産研究所　2025 年３月 13 日

豊かで魅力あふれる岡山の川づくりを支援しています
（アユ資源回復に向けた取組）

岡山の街を流れる旭川、そんな旭川にもアユがいることをご存じですか？天然の稚アユは、５月頃に岡山城や後楽園の横の旭川を遡上し、その後、夏にかけて 20cm ほどに成長します。アユは夏の風物詩である「友釣り」のターゲットとなっていますが、近年、漁獲量が減少しています（図１）。原因として、疾病や外敵による食害、河川環境の変化などが考えられていますが、地元の旭川南部漁業協同組合ではアユの資源回復に向けた産卵場造成等を行っています。水産研究所では、技術的な助言や効果調査の実施等により、これらの取組を支援しています。

旭川の河口から 30km 程上流に位置する御津金川の大曽根堰では、遡上する稚アユがこの堰を越えるのは難しいことが分かったことから、初夏に漁協が簡易的な魚道の設置を行っています（図２）。簡易的な魚道を設置することで、堰を越える稚アユを確認することができました（図３）。大雨による増水でこの魚道が破損したケースがあり、その補修の前後で堰の上流部を通過したアユの数を比較すると、補修後が明らかに多かったことから、簡易的な魚道の有効性が示唆されました（図４）。

また、旭川下流の山陽本線が交差するあたり、まさに街のど真ん中では、秋に産卵場造成を行っています。アユの産卵に適した 0.5～３cm ほどの小石中心の河床となるように重機や人力により大きな石を取り除き、均します（図５）。作業は決して楽ではありませんが、その甲斐もあって、令和４年には最大 7.7 万粒/m^2 の産卵が確認できました（図６）。ただ、令和６年は、11 月初旬の大雨によって造成場所は被害を受け、産卵は低調に終わりました。

これからも身近な旭川でのアユの資源回復に向けた取組を支援してまいります。

（海面・内水面増殖研究室　竹本）

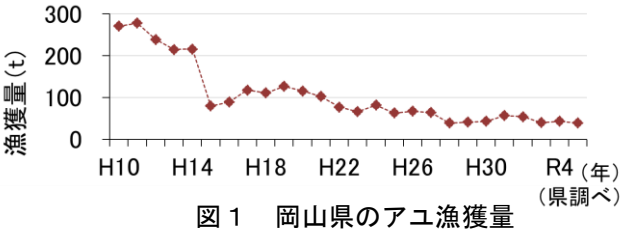

図１　岡山県のアユ漁獲量

図２　簡易はしご型魚道

図３　大曾根堰を遡る稚アユ

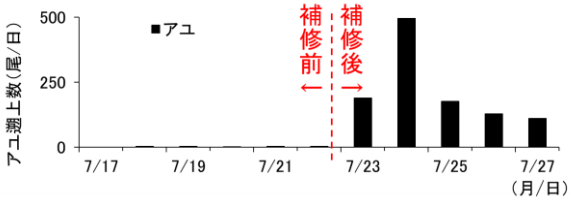

図４　魚道設置箇所の上流部で確認された
アユの尾数の推移（R5 年）

図５　産卵場造成

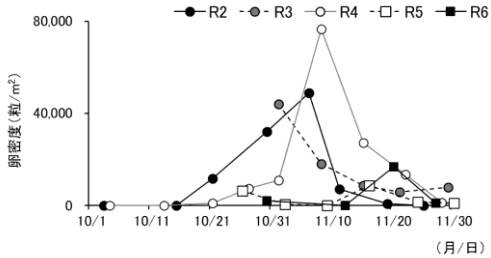

図６　造成した産卵場におけるアユ卵数の推移